

新税による財源の使途の検証のしくみについて

1 使途の区分について

(1) 区分の必要性について

市民に対する説明責任として、新たな税収の使い道、使い方等を明らかにするために、新たな税収を既存の税収と分け、使途を明確にするしくみが必要となる。

(2) 基金等の創設について

特定の目的のために資金を積み立て活用する手法に基金制度等がある。以下の視点をもとに制度の検討を行うことが必要である。

- ア 透明性・説明責任
- イ 柔軟性
- ウ 安定性
- エ その他

2 使途の検証について

(1) 検証の必要性について

新税による財源が、緑の保全と創造に適切に使われていることを、客観的に検証し、より良い施策が行われるようフォローアップしていく必要がある。

(2) 方法

議会による審議によるほか、第3者の学識者による専門的知見や市民の声・目線を反映した客観的な方法が必要である。

(3) 検証のサイクル

検証のサイクルとしては、数年サイクルとするか毎年とするなど、検証の内容と方法を検討する必要がある。

3 市民への情報発信

緑の施策の推進のためには、市民の参加・協働が不可欠であることから、使途の検証等を踏まえ、市民への情報発信により、市民理解を得ていくことを行う必要がある。

4 今後について

上記の方向性をもとに、施策の検討等の状況を踏まえて、具体的なしくみの検討を進める。